

## 吸収紙

### Absorbent Paper

本品は、化学パルプを抄紙したものである。

#### 性 状

- (1) 本品は、白色で、においはなく異物を含まない。
- (2) 本品は、未解離繊維を著しく含まない。

#### 純度試験

##### (1) リグニン

本品に、フロログルシン 0.1g に塩酸 15mL 及び水を加えて溶かし 20mL とした液を滴下するとき、著しい桃色又は赤色を呈しない。

##### (2) 色 素

本品 10g にエタノール 100mL を加えて冷浸し、圧して浸液 50mL をとり、ネスラー管に入れ、上方から観察するとき、液の色は、黄色を呈することがあっても青色又は緑色を呈しない。

##### (3) 酸及びアルカリ

本品 10g に、新たに煮沸し、冷却した水 100mL を加え冷浸する。その浸液 25mL をとり、これにフェノールフタレイン試液 3 滴を加えるとき、紅色を呈しない。また、別に同液 25mL をとり、これにメチルオレンジ試液 1 滴を加えるとき、赤色を呈しない。

##### (4) けい光

本品に暗所で紫外線（主波長：365nm）を照射するとき、著しいけい光又は汚染を疑わせるけい光を認めない。

##### (5) 沈降速度

本品 5.0g をとり、径 0.4mm の銅線（26 番線）を用いて作った径 50mm、深さ 80mm、線と線との距離 20mm 及び重さ約 3g の円筒型の試験かごの中に入れ、深さ約 200mm の常温の水の中に水面上約 10mm の高さからかごを横にして静かに落とすとき、かごは、8 秒以内に水面下に沈む。

灰 分 0.65%以下 (5.0g)

## 高密度ポリエチレン

### High-density Polyethylene (HDPE)

本品は、エチレンを重合して得られる直鎖状の高密度ポリエチレンの樹脂である。

#### 性 状

本品は、半透明の粉末又は粒状で、においはほとんどない。

#### 確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $2960\text{cm}^{-1}$ 、 $2870\text{cm}^{-1}$ 、 $1460\text{cm}^{-1}$ 、 $730\text{cm}^{-1}$ 及び $720\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収が認められる。

比 重 0.85~1.00

融 点  $115\sim 140^{\circ}\text{C}$

純度試験

(1) 溶 状

本品1gにキシレン50mLを加え、加熱して溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 重金属 20ppm以下 (第2法)

(3) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 0.1%以下 (5.0g、第1法)

### 脂環族飽和炭化水素樹脂

#### Cycloaliphatic Saturated Hydrocarbon Resin

本品は、主として $\text{C}_9$ 系石油樹脂に水素添加したもので、平均分子量は550~900である。

性 状

本品は、ほとんど無色透明なガラス状の塊で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

比 重 0.98~1.03

確認試験

本品約1.0gをクロロホルム5mLに溶かし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $2930\text{cm}^{-1}$ 、 $1450\text{cm}^{-1}$ 、 $1380\text{cm}^{-1}$ 及び $760\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収が認められる。

重 金 属 10ppm以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (2.0g、 $105^{\circ}\text{C}$ 、2時間)

強熱残分 0.01%以下 (50g、 $800^{\circ}\text{C}$ 、3時間)

### シクロパラフィン

#### Cycloparaffin

本品は、石油から得た液状の炭化水素類の混合物である。

性 状

本品は、無色~淡黄色の液体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

比 重  $d_4^{15}$  : 0.81~0.94

純度試験

(1) 液 性

本品10mLに熱湯10mL及びフェノールフタレイン試液1滴を加えて激しく振り混ぜるとき、赤色を呈しない。また、別に本品10mLをとり、熱湯10mL及びメチルオレンジ試液1滴を加えるとき、赤色を呈しない。

(2) イオウ化合物

本品4.0mLをとり、エタノール (99.5) 2mLを加え、水酸化ナトリウム溶液 (1→5) に一酸化鉛を飽和した透明な液2滴を加え、しばしば振り混ぜながら70℃で10分間加熱放冷するとき、液は、暗褐色を呈しない。

(3) 多核芳香族炭化水素

本品25mLを25mLのメスシリンダーにとり、100mLの分液漏斗に移し、メスシリンダーを吸収スペクトル用n-ヘキサン25mLを用いて洗い、洗液を分液漏斗に合わせ、よく振り混ぜる。これに吸収スペクトル用ジメチルスルホキシド5.0mLを加え、2分間激しく振り混ぜた後、15分間放置する。下層を50mLの分液漏斗に移し、吸収スペクトル用n-ヘキサン2mLを加え、2分間激しく振り混ぜた後、2分間静置する。下層を10mLの栓付遠心沈殿管に移し、毎分2500~3000回転で約10分間遠心分離して得た澄明な液をセルにとり、密栓し、これを試料溶液とする。別に吸収スペクトル用n-ヘキサン25mLを50mLの分液漏斗にとり、吸収スペクトル用ジメチルスルホキシド5.0mLを加え、2分間激しく振り混ぜた後、2分間静置する。下層を10mLの栓付遠心沈殿管に移し、毎分2500~3000回転で約10分間遠心分離して得た澄明な液をセルにとり、密栓する。これを対照として直ちに試料溶液の吸光度を測定するとき、波長260~350nmにおいて、4.0以下である。

(4) 重金属 10ppm以下 (2.0g、第3法、鉛標準液2.0mL)

(5) ヒ素 2ppm以下 (第2法)

### ジベンゾチアジルスルフィド

#### Dibenzothiazyl Disulfide

本品は、2-メルカプトベンゾチアゾールのアルカリ塩の水溶液に臭素等の酸化剤を作用して得られるジ (ベンゾチアゾリル-2) ジスルフィド (C<sub>14</sub>H<sub>8</sub>N<sub>2</sub>S<sub>4</sub> 332.49) である。

#### 性状

本品は、白色~淡黄色の粉末で、水及びエタノールに不溶で、トルエン及びクロロホルムに溶ける。

#### 確認試験

本品 0.1g をメスフラスコにとり、クロロホルムを加えて溶かし 100mL とする。この液 5μL をとり、液体クロマトグラフィーにより測定するとき、約 22.6 分の保持時間でピークを示す。

#### 操作条件

検出器：紫外吸光光度計 (測定波長：254nm)

カラム：内径 4.6mm、長さ 25cm のステンレス管にオクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。

流速：0.8mL/min

融 点 165～175℃

純度試験

(1) 重金属 20ppm 以下 (第2法)

(2) ヒ素 2ppm 以下 (第2法)

強熱残分 0.5%以下 (第1法)

### 脂肪族炭化水素樹脂

Aliphatic Hydrocarbon Resin

本品は、主として C<sub>5</sub>系石油炭化水素樹脂で、平均分子量は 500～2000 である。

性 状

(1) 本品は、白色～淡黄褐色の碎きやすい固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

(2) 本品は、トルエンに溶けやすく、水及びエタノールにはほとんど溶けない。

比 重 1.03～1.06

確認試験

本品を粉碎し臭化カリウム粉末と混合し板状に固化後、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 2970～2950cm<sup>-1</sup>、1300cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

重 金 属 10ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (2.0g、105℃、2時間)

強熱残分 0.01%以下 (1.0g、450～550℃)

### 脂肪族芳香族共重合体樹脂

(芳香族変性脂肪族炭化水素樹脂)

Aliphatic and Aromatic Copolymer Resin

(Aromatic and Denatured Aliphatic Hydrocarbon Resin)

本品は、主として C<sub>5</sub>系樹脂と芳香族系樹脂を共重合したもので、平均分子量は 400～1500 である。

性 状

(1) 本品は、淡黄色の固体又は粘稠な液体で、においはほとんどない。

(2) 本品は、水及びエタノールにはほとんど溶けないが、テトラヒドロフラン及びエーテルには溶けやすい。

確認試験

本品 1g をトルエン 10mL に溶かした後、臭化カリウム窓板に塗布しトルエンを揮発させ薄膜とし、

赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2970~2950 $\text{cm}^{-1}$ 、1600 $\text{cm}^{-1}$ 、1460 $\text{cm}^{-1}$ 、1370 $\text{cm}^{-1}$ 及び700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品 150g をテトラヒドロフラン 400mL に溶かすとき、液は透明である。

##### (2) 重金属 10ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 3%以下 (5.0g、105°C、4時間)

強熱残分 0.01%以下 (30g、600°C)

### 脂肪族飽和炭化水素樹脂

#### Aliphatic Saturated Hydrocarbon Resin

本品は、主として C<sub>5</sub>系石油樹脂に水素添加したもので、平均分子量は 300~600 である。

#### 性 状

本品は、ほとんど無色透明の粘稠な液体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

比 重  $d_4^{15}$  0.90~0.95

#### 確認試験

本品約 1.0g をクロロホルム 5mL に溶かし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2930 $\text{cm}^{-1}$ 、1450 $\text{cm}^{-1}$ 、1380 $\text{cm}^{-1}$ 及び760 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

重 金 属 10ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (2.0g、105°C、2時間)

強熱残分 0.1%以下 (50g、800°C、3時間)

### 水素添加脂肪族芳香族共重合体樹脂

#### Hydrogenated Aliphatic and Aromatic Copolymer Resin

本品は、主として C<sub>5</sub>系樹脂と芳香族系樹脂を共重合し、水素添加したもので、平均分子量は 500~1000 である。

#### 性 状

本品は、無色透明のペレット状もしくはフレーク状の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、トルエン、キシレン及びジエチルエーテルに溶けやすく、水及びエタノールにほとんど溶けない。

#### 確認試験

本品 1mg 及び乾燥した赤外吸収スペクトル測定用臭化カリウム 100~200mg を完全に混合した後、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 3650cm<sup>-1</sup>、2930cm<sup>-1</sup>、2850cm<sup>-1</sup>、2790cm<sup>-1</sup>、2670cm<sup>-1</sup>、2600cm<sup>-1</sup>、1746cm<sup>-1</sup>、1449cm<sup>-1</sup>、1375cm<sup>-1</sup>、890cm<sup>-1</sup>、843cm<sup>-1</sup>、757cm<sup>-1</sup> 及び 700cm<sup>-1</sup> 付近に吸収を認める。

重金属 10ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (2.0g、105℃、2時間)

強熱残分 0.02%以下 (5.0g、850℃、30分)

### 水素添加ジシクロペンタジエン系炭化水素樹脂 Hydrogenated Dicyclopentadiene-group Hydrocarbon Resin

本品は、ジシクロペンタジエンを主成分とする重合物を水素添加した固形の樹脂で、平均分子量は 300~700 である。

#### 性 状

本品は、無色透明の砕きやすい固体で、においはない。

本品は、テトラヒドロフラン及びトルエンに溶けやすく、水及びエタノールにほとんど溶けない。

酸 価 0.1 以下 (第1法)

本品 2g を精密に量り、トルエン/イソプロピルアルコール混液 (2:1) 40mL を加えて溶かしたのについて試験を行う。

比 重 1.05~1.08

#### 確認試験

本品を粉碎し、臭化カリウム粉末と混合し板状に固化後、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 2970~2950cm<sup>-1</sup>、1463cm<sup>-1</sup> 及び 1373cm<sup>-1</sup> 付近に吸収を認める。

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品 150g をとり、テトラヒドロフラン 400mL に溶かすとき、液は透明である。

(2) 重金属 10ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 1%以下 (5.0g、105℃、4時間)

強熱残分 0.01%以下 (30g、600℃)

### スチレン・イソプレン・スチレンブロック共重合体 Styrene·Isoprene·Styrene Block Copolymer

本品は、ポリスチレン・ポリイソプレン・ポリスチレンの 3 ブロックよりなる共重合体で、平均分子量は 80000~200000 である。

## 性 状

本品は、白色～淡黄色の弾力性のあるペレット状又はクラム状の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品はテトラヒドロフラン、ジエチルエーテル又はトルエンに溶けやすく、水又はエタノールにほとんど溶けない。

## 確認試験

本品 1g をトルエン 10mL に溶かし、その 1 滴を臭化カリウム窓板に塗布し、溶媒を揮散させ薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数  $2960\text{cm}^{-1}$ 、 $2850\text{cm}^{-1}$ 、 $1600\text{cm}^{-1}$ 、 $1452\text{cm}^{-1}$ 、 $1375\text{cm}^{-1}$  及び  $837\text{cm}^{-1}$  付近に吸収を認める。

## 粘 度

本品 50.0g をとり、トルエン 150g に溶かし、試料溶液とし、粘度を 2 回測定する。そのとき、粘度の平均値は  $100\sim 1700\text{mPa}\cdot\text{s}$  である。(ブルックフィールド型回転粘度計、3 号、 $10\sim 60$  回転、 $30\pm 1^\circ\text{C}$ 、1 分)

## 純度試験

### (1) 溶 状

本品 1.0g をトルエン 100mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

### (2) 溶出物試験

本品 5.0g をとり、水 80mL を加え、還流冷却器を付けて 30 分間煮沸する。冷後、抽出液をろ過し、ろ液に水を加えて正確に 100mL とする。この液を試料溶液として次の試験を行う。

①pH  $6.0\sim 9.0$

②塩化物

試料溶液 10mL をとり、試験を行う。比較液には  $0.01\text{mol/L}$  塩酸 1.2mL を加える ( $0.085\%$  以下)。

③重金属  $20\text{ppm}$  以下 (試料溶液 20mL、第 1 法、鉛標準液 2.0mL)

④過マンガン酸カリウム還元性物質

試料溶液 25mL を共栓三角フラスコにとり、 $0.002\text{mol/L}$  過マンガン酸カリウム液 10.0mL 及び希硫酸 5mL を加え、3 分間煮沸する。冷後、これにヨウ化カリウム 0.10g を加えて密栓し、振り混ぜて 10 分間放置した後  $0.01\text{mol/L}$  チオ硫酸ナトリウム液で滴定する (指示薬:デンプン試液 5 滴)。別に空試験液 25mL を用い、同様に操作するとき、両液の  $0.002\text{mol/L}$  過マンガン酸カリウム液の消費量の差は 2.0mL 以下である。

### (3) スチレン

本品 5.0g を正確に量り、テトラヒドロフラン 50mL に溶かす。この液にメタノールを加えて正確に 100mL とし、10 分間激しく振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別にスチレン 0.10g を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100mL とする。この液 5mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とする。更にこの液 1mL を正確に量り、テトラヒドロフラン 50mL を加えて混和し、メタノールを加えて正確に 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液  $100\mu\text{L}$  につき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液から得たスチレ

ンのピーク面積は、標準溶液のスチレンのピーク面積より大きくない。

#### 操作条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：268nm）

カラム：内径約 4mm、長さ約 15cm のステンレス管に 10 $\mu$ m の液体クロマトグラフィー用  
オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：25 $^{\circ}$ C付近の一定温度

移動相：水/テトラヒドロフラン混液（1：1）

流量：スチレンの保持時間が約 5分になるように調整する。

検出感度：標準溶液 100 $\mu$ L から得たスチレンのピーク高さが 5mm 以上になるように調整する。

#### (4) リチウム

本品 1.0g をるつぼにとり、450 $\sim$ 500 $^{\circ}$ C で強熱して灰化する。冷後、0.1mol/L 塩酸試液 2mL に溶かし、水 10mL を加えてガラスろ過器（G4）でろ過する。更にろ液に水を加えて正確に 200mL とし、試料溶液とする。別に原子吸光光度用リチウム標準液 1.0mL を正確に量り、水を加えて正確に 100mL とする。この液 10mL を正確に量り、0.1mol/L 塩酸試液 2mL を加え、更に水を加えて正確に 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、次の条件で原子吸光光度法により試験を行うとき、試料溶液の吸光度は標準溶液の吸光度より大きくない。

使用ガス：可燃性ガス アセチレン

支燃性ガス 空気

ランプ：リチウム中空陰極ランプ

波長：670.8nm

乾燥減量 1.0%以下（1g、105 $^{\circ}$ C、4時間）

強熱残分 2.0%以下（1g）

### スチレン・エチレン・ブチレン・スチレンブロック共重合体

Styrene·Ethylene-Butylene·Styrene Block Copolymer

本品は、ポリスチレン・ポリブタジエン・ポリスチレンのブロックよりなる共重合体を水素添加したポリスチレン・ポリエチレンブチレン・ポリスチレンのブロック共重合体で、平均分子量は30000 $\sim$ 300000である。

#### 性 状

本品は、白色 $\sim$ 淡黄色の弾力性のあるペレット状、クラム状もしくはパウダー状の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、テトラヒドロフラン、エーテル及びトルエンに溶けやすく、水及びエタノールにほとんど溶けない。

#### 確認試験



本品1gをトルエン10mLに溶かし、その1滴を臭化カリウム窓板に塗布し溶媒を揮散させ、薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2920 $\text{cm}^{-1}$ 、2850 $\text{cm}^{-1}$ 、1601 $\text{cm}^{-1}$ 、1380 $\text{cm}^{-1}$ 、760 $\text{cm}^{-1}$ 及び700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

#### 粘 度

本品50.0gをとり、トルエン150gに溶かし、気泡を除いて試料溶液とし、粘度を2回測定する。その時、粘度の平均値は100～10000 $\text{mPa}\cdot\text{s}$ である。(ブルックフィールド型回転粘度計、3号、10～60回転、25 $\pm$ 1 $^{\circ}\text{C}$ 、1分)

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品1.0gをトルエン100mLに溶かすとき、液は無色透明である。

##### (2) 溶出物試験

本品5.0gをとり、水80mLを加え、還流冷却器を付けて30分間煮沸する。冷後、抽出液をろ過し、ろ液に水を加えて正確に100mLとする。この液を試料溶液として次の試験を行う。

①pH 5.0～9.0

②塩化物

試料溶液10mLをとり試験を行う。比較液には0.01mol/L塩酸1.2mLを加える(0.085%以下)。

③重金属 20ppm以下(試料溶液20mL、第1法、鉛標準液2mL)

④過マンガン酸カリウム還元性物質

試料溶液25mLを共栓三角フラスコにとり、0.002mol/L過マンガン酸カリウム液10.0mL及び希硫酸5mLを加え、3分間煮沸する。冷後、これにヨウ化カリウム0.10gを加えて密栓し、振り混ぜて10分間放置した後、0.01mol/Lチオ硫酸ナトリウム液で滴定する(指示薬：デンプン試液5滴)。別に空試験液25mLを用い、同様に操作するとき、両液の0.002mol/L過マンガン酸カリウム液の消費量の差は2.0mL以下である。

##### (3) スチレン

本品5.0gを正確に量り、テトラヒドロフラン50mLに溶かす。この液にメタノールを加えて正確に100mLとし、10分間激しく振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別にスチレン0.10gを正確に量り、メタノールを加えて正確に100mLとする。この液5mLを正確に量り、メタノールを加えて正確に100mLとする。更にこの液1mLを正確に量り、テトラヒドロフラン50mLを加えて混和し、メタノールを加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液100 $\mu\text{L}$ につき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液から得たスチレンのピーク面積は、標準溶液のスチレンのピーク面積より大きくない。

#### 操作条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：268nm)

カラム：内径約4mm、長さ約15cmのステンレス管に10 $\mu\text{m}$ の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：25 $^{\circ}\text{C}$ 付近の一定温度

移動相：水/テトラヒドロフラン混液(1:1)

流 量：スチレンの保持時間が約5分になるように調整する。

検出感度：標準溶液 100  $\mu$ L から得たスチレンのピーク高さが 5mm 以上になるように調整する。

#### (4) リチウム

本品1.0gをろつばにとり、450~500℃で強熱して灰化する。冷後、0.1mol/L塩酸試液2mLに溶かし、水10mLを加えてガラスろ過器(G4)でろ過する。更にろ液に水を加えて正確に200mLとし、試料溶液とする。別に原子吸光光度用リチウム標準液1.0mLを正確に量り、水を加えて正確に100mLとする。この液10mLを正確に量り、0.1mol/L塩酸試液2mLを加え、更に水を加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、次の条件で原子吸光光度法により試験を行うとき、試料溶液の吸光度は標準溶液の吸光度より大きくない。

使用ガス：可燃性ガス アセチレン

支燃性ガス 空気

ランプ：リチウム中空陰極ランプ

波 長：670.8nm

乾燥減量 1.0%以下 (1.0g、105℃、4時間)

強熱残分 2.0%以下 (第1法)

### スチレン・エチレン・プロピレン・スチレンブロック共重合体

Styrene·Ethylene-Propylene·Styrene Block Copolymer

本品は、ポリスチレン・ポリイソブレン・ポリスチレンのブロック又はスチレン・ポリ(イソブレン/ブタジエン)・ポリスチレンのブロック共重合体よりなる共重合体を水素添加したポリスチレン・ポリエチレンプロピレン・ポリスチレンのブロック共重合体で、平均分子量は30000~300000である。

#### 性 状

本品は、白色~淡黄色の弾力性のあるペレット状、クラム状もしくはパウダー状の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、テトラヒドロフラン、エーテル及びトルエンに溶けやすく、水及びエタノールにほとんど溶けない。

#### 確認試験

本品1gをトルエン10mLに溶かし、その1滴を臭化カリウム窓板に塗布し溶媒を揮散させ、薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2920 $\text{cm}^{-1}$ 、2850 $\text{cm}^{-1}$ 、1601 $\text{cm}^{-1}$ 、1380 $\text{cm}^{-1}$ 、760 $\text{cm}^{-1}$ 及び700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

#### 粘 度

本品50.0gをとり、トルエン150gに溶かし、気泡を除いて試料溶液とし、粘度を2回測定する。その時、粘度の平均値は150~20000 $\text{mPa}\cdot\text{s}$ である。(ブルックフィールド型回転粘度計、3号、10~60回転、25 $\pm$ 1℃、1分)

#### 純度試験

(1) 溶 状

本品1.0gをトルエン100mLに溶かすとき、液は無色透明である。

(2) 溶出物試験

本品5.0gをとり、水80mLを加え、還流冷却器を付けて30分間煮沸する。冷後、抽出液をろ過し、ろ液に水を加えて正確に100mLとする。この液を試料溶液として次の試験を行う。

①pH 5.0～9.0

②塩化物

試料溶液10mLをとり試験を行う。比較液には0.01mol/L塩酸1.2mLを加える(0.085%以下)。

③重金属 20ppm以下(試料溶液20mL、第1法、鉛標準液2mL)

④過マンガン酸カリウム還元性物質

試料溶液25mLを共栓三角フラスコにとり、0.002mol/L過マンガン酸カリウム液10.0mL及び希硫酸5mLを加え、3分間煮沸する。冷後、これにヨウ化カリウム0.10gを加えて密栓し、振り混ぜて10分間放置した後、0.01mol/Lチオ硫酸ナトリウム液で滴定する(指示薬:デンプン試液5滴)。別に空試験液25mLを用い、同様に操作するとき、両液の0.002mol/L過マンガン酸カリウム液の消費量の差は2.0mL以下である。

(3) スチレン

本品5.0gを正確に量り、テトラヒドロフラン50mLに溶かす。この液にメタノールを加えて正確に100mLとし、10分間激しく振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別にスチレン0.10gを正確に量り、メタノールを加えて正確に100mLとする。この液5mLを正確に量り、メタノールを加えて正確に100mLとする。更にこの液1mLを正確に量り、テトラヒドロフラン50mLを加えて混和し、メタノールを加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液100 $\mu$ Lにつき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液から得たスチレンのピーク面積は、標準溶液のスチレンのピーク面積より大きくない。

操作条件

検出器: 紫外吸光光度計(測定波長: 268nm)

カラム: 内径約4mm、長さ約15cmのステンレス管に10 $\mu$ mの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度: 25 $^{\circ}$ C付近の一定温度

移動相: 水/テトラヒドロフラン混液(1:1)

流量: スチレンの保持時間が約5分になるように調整する。

検出感度: 標準溶液100 $\mu$ Lから得たスチレンのピーク高さが5mm以上になるように調整する。

(4) リチウム

本品1.0gをろつばにとり、450～500 $^{\circ}$ Cで強熱して灰化する。冷後、0.1mol/L塩酸試液2mLに溶かし、水10mLを加えてガラスろ過器(G4)でろ過する。更にろ液に水を加えて正確に200mLとし、試料溶液とする。別に原子吸光光度用リチウム標準液1.0mLを正確に量り、水を加えて正確に100mLとする。この液10mLを正確に量り、0.1mol/L塩酸試液2mLを加え、更に水を加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、次の条件で原子吸光

光度法により試験を行うとき、試料溶液の吸光度は標準溶液の吸光度より大きくない。

使用ガス：可燃性ガス アセチレン

支燃性ガス 空気

ランプ：リチウム中空陰極ランプ

波長：670.8nm

乾燥減量 1.0%以下 (1.0g、105℃、4時間)

強熱残分 2.0%以下 (第1法)

### スチレン・ブタジエン・スチレンブロック共重合体

Styrene·Butadiene·Styrene Block Copolymer

本品は、ポリスチレンとポリブタジエンのブロックよりなる共重合体で、平均分子量は30000～300000である。

#### 性 状

本品は、白色～淡黄色の弾力性のあるペレット状、クラム状もしくはパウダー状の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、テトラヒドロフラン及びトルエンに溶けやすく、水及びエタノールにほとんど溶けない。

#### 確認試験

本品1gをトルエン10mLに溶かし、その1滴を臭化カリウム窓板に塗布し溶媒を揮散させ薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2960 $\text{cm}^{-1}$ 、2850 $\text{cm}^{-1}$ 、1600 $\text{cm}^{-1}$ 、1452 $\text{cm}^{-1}$ 、965 $\text{cm}^{-1}$ 、910 $\text{cm}^{-1}$ 及び700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

#### 粘 度

本品50.0gをとり、トルエン150gに溶かし、試料溶液とし、粘度を2回測定する。その時、粘度の平均値は200～20000 $\text{mPa}\cdot\text{s}$ である。(ブルックフィールド型回転粘度計、3号、10～60回転、25 $\pm$ 1℃、1分)

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品1.0gをトルエン100mLに溶かすとき、液は無色透明である。

##### (2) 溶出物試験

本品5.0gをとり、水80mLを加え、還流冷却器を付けて30分間煮沸する。冷後、抽出液をろ過し、ろ液に水を加えて正確に100mLとする。この液を試料溶液として次の試験を行う。

①pH 5.0～9.0

②塩化物

試料溶液10mLをとり試験を行う。比較液には0.01mol/L塩酸1.2mLを加える(0.085%以下)。

③重金属 20ppm以下(試料溶液20mL、第1法、鉛標準液2mL)

④過マンガン酸カリウム還元性物質

試料溶液25mLを共栓三角フラスコにとり、0.002mol/L過マンガン酸カリウム液10.0mL及び

希硫酸5mLを加え、3分間煮沸する。冷後、これにヨウ化カリウム0.10gを加えて密栓し、振り混ぜて10分間放置した後、0.01mol/Lチオ硫酸ナトリウム液で滴定する（指示薬：デンプン試液5滴）。別に空試験液25mLを用い、同様に操作するとき、両液の0.002mol/L過マンガン酸カリウム液の消費量の差は2.0mL以下である。

### (3) スチレン

本品5.0gを正確に量り、テトラヒドロフラン50mLに溶かす。この液にメタノールを加えて正確に100mLとし、10分間激しく振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別にスチレン0.10gを正確に量り、メタノールを加えて正確に100mLとする。この液5mLを正確に量り、メタノールを加えて正確に100mLとする。更にこの液1mLを正確に量り、テトラヒドロフラン50mLを加えて混和し、メタノールを加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液100 $\mu$ Lにつき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液から得たスチレンのピーク面積は、標準溶液のスチレンのピーク面積より大きくない。

#### 操作条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：268nm）

カラム：内径約4mm、長さ約15cmのステンレス管に10 $\mu$ mの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：25 $^{\circ}$ C付近の一定温度

移動相：水/テトラヒドロフラン混液（1：1）

流量：スチレンの保持時間が約5分になるように調整する。

検出感度：標準溶液100 $\mu$ Lから得たスチレンのピーク高さが5mm以上になるように調整する。

### (4) リチウム

本品1.0gをろつばにとり、450~500 $^{\circ}$ Cで強熱して灰化する。冷後、0.1mol/L塩酸試液2mLに溶かし、氷10mLを加えてガラスろ過器（G4）でろ過する。更にろ液に水を加えて正確に200mLとし、試料溶液とする。別に原子吸光光度用リチウム標準液1.0mLを正確に量り、水を加えて正確に100mLとする。この液10mLを正確に量り、0.1mol/L塩酸試液2mLを加え、更に水を加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、次の条件で原子吸光光度法により試験を行うとき、試料溶液の吸光度は標準溶液の吸光度より大きくない。

使用ガス：可燃性ガス アセチレン

支燃性ガス 空気

ランプ：リチウム中空陰極ランプ

波長：670.8nm

乾燥減量 1.0%以下（1.0g、105 $^{\circ}$ C、4時間）

強熱残分 2.0%以下（第1法）

スチレン・メタクリル酸エステル共重合体液

Styrene · Methacrylate Copolymer Solution

本品は、スチレン・メタクリル酸エステル共合体をエピクロルヒドリンで4級化塩とした水溶液である。

#### 性 状

本品は、白色～乳白色の液体で、わずかに酢酸臭がある。

#### 確認試験

本品を105℃で約2時間乾燥後、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2920 $\text{cm}^{-1}$ 、1730 $\text{cm}^{-1}$ 、1490 $\text{cm}^{-1}$ 、1450 $\text{cm}^{-1}$ 、1380 $\text{cm}^{-1}$ 、760 $\text{cm}^{-1}$ 及び700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

pH 4.0～6.0 (1→10)

#### 純度試験

- (1) 重金属 10ppm以下 (第2法)
- (2) ヒ素 2ppm以下 (第2法)
- (3) エピクロルヒドリン

本品50gに水200mLを加え、エーテル30mLずつで5回抽出する。エーテル抽出液を合わせ、水30mLで洗い、無水硫酸ナトリウム5gを加えて脱水した後、エーテルを留去する。残留物にアセトン5mLを加えて溶かし、これを試料溶液とする。別にエピクロルヒドリンのアセトン溶液(1→10000) 5mLをとり、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、次の操作条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行うとき、試料溶液から得られるエピクロルヒドリンのピーク面積は、標準溶液のピーク面積より小さい。

#### 操作条件

検出器：水素炎イオン化検出器

分離管：内径3～4mmの管にポリエチレングリコール20Mを177～250 $\mu\text{m}$ のガスクロマトグラフィー用ケイソウ土に10%の割合で被覆させたものを充てんする。

分離管温度：80→140℃

昇温速度：10℃/min

キャリアーガス及び流量：窒素、エピクロルヒドリンの保持時間が4分になるように流量を調整する。

試料注入量：10 $\mu\text{L}$

### 疎水性ゼオライト

本品は、ケイ酸ナトリウム及びアルミン酸ナトリウムの反応より得られる疎水性ゼオライトである。

#### 性 状

本品は、白色で、においはほとんどなく、異物を含まない。

#### 確認試験

- (1) 本品0.1gに1mol/L塩酸1mLを加えて30秒間超音波分散した後、5分間煮沸する。冷後、水2mLを加え、0.45 $\mu$ mメンブランフィルターでろ過する。ろ液に白色のゲル状沈殿を生じるまでアンモニア試液を加え、アリザリンS試液5滴を追加するとき、沈殿は、赤色に変わる。
- (2) 白金線輪にリン酸水素アンモニウムナトリウムの融解球を作り、これに本品を付け、再び融解するとき、球中に不溶解の塊を認め、その融解球は冷えると不透明となり、網目状の模様を生じる。

#### 純度試験

##### (1) 液性

本品5.0gに水70mLを加えて激しく振り混ぜた後、5分間煮沸する。冷後、水を加えて100mLとし、よくかき混ぜた後、遠心分離するとき、上澄液は、中性である。

##### (2) 重金属

本品1.0gを水2mLに分散し、希塩酸10mLを加えてよく振り混ぜた後、ろ過する。残留物を水10mLで洗い、洗液はろ液に合わせ、アンモニア水(28)を滴加し、沈殿がわずかに析出したとき、強く振り動かしながら希塩酸を滴加して再び溶かす。この液に塩酸ヒドロキシルアミン0.15gを加え加熱し、冷後、酢酸ナトリウム0.15g、希酢酸2mL及び水を加えて50mLとする。これを試料溶液とし、第4法により試験を行うとき、その限度は、30ppm以下である。ただし、比較液は、鉛標準液3.0mLに塩酸ヒドロキシルアミン0.15g、酢酸ナトリウム0.15g、希酢酸2mL及び水を加えて50mLとする。

##### (3) ヒ素

本品0.4gを水1mLに分散し、希塩酸10mLを加えてよく振り混ぜる。これを試料溶液とし、試験を行うとき、その限度は、5ppm以下である。

乾燥減量 4.0%以下 (1g、105°C、2時間)

### 脱脂綿

#### Absorbent Cotton

本品は、綿毛を脱脂したものである。

#### 性状

- (1) 本品は、白色で、においはなく異物を含まない。
- (2) 本品は、果皮、種子の破片又はネップを著しく含まない。

#### 確認試験

本品は、アンモニア銅試液に溶ける。

#### 純度試験

##### (1) 色素

本品10gにエタノール100mLを加え冷侵し、圧して浸液50mLをとり、ネスラー管に入れ、上方から観察するとき、液の色は、黄色を呈することはあっても青色又は緑色を呈しない。

##### (2) 酸及びアルカリ

本品10gに、新たに煮沸し、冷却した水100mLを加え冷侵する。その浸液25mLをとり、これにフェノールフタレイン試液3滴を加えるとき、紅色を呈しない。また、別に同液25mLをとり、これにメチルオレンジ試液1滴を加えるとき、赤色を呈しない。

(3) けい光

本品に暗所で紫外線（主波長：365nm）を照射するとき、著しいけい光又は汚染を疑わせるけい光を認めない。

(4) 沈降速度

本品5.0gをとり、径0.4mmの銅線（26番線）を用いて作った径50mm、深さ80mm、線と線との距離20mm及び重さ約3gの円筒形の試験かごの中に入れ、深さ約200mmの常温の水の中に水面上約10mmの高さからかごを横にして静かに落とすとき、かごは、8秒以内に水面下に沈む。

灰 分 0.25%以下 (5.0g)

### 直鎖状低密度ポリエチレン

#### Linear Low-density Polyethylene (LLDPE)

本品は、エチレンを重合して得られる短鎖分岐をもった直鎖状の低密度ポリエチレン樹脂である。

#### 性 状

本品は、半透明の粉末又は粒状で、においはほとんどない。

#### 確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2960 $\text{cm}^{-1}$ 、2870 $\text{cm}^{-1}$ 、1460 $\text{cm}^{-1}$ 、730 $\text{cm}^{-1}$ 及び720 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収が認められる。

比 重 0.85～0.94

融 点 90～130℃

#### 純度試験

(1) 溶 状

本品1gにキシレン50mLを加え、加熱して溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 重金属 20ppm以下 (第2法)

(3) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 0.1%以下 (5.0g、第1法)

### 低密度ポリエチレン

#### Low-density Polyethylene (LDPE)

本品は、エチレンを重合して得られる長鎖分岐をもった分岐低密度ポリエチレン樹脂である。

#### 性 状



本品は、半透明の粉末又は粒状で、においはほとんどない。

#### 確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数  $2960\text{cm}^{-1}$ 、 $2870\text{cm}^{-1}$ 、 $1460\text{cm}^{-1}$ 、 $1384\text{cm}^{-1}$ 、 $1379\text{cm}^{-1}$ 、 $1366\text{cm}^{-1}$ 、 $730\text{cm}^{-1}$  及び  $720\text{cm}^{-1}$  付近に吸収が認められる。

比 重 0.85~0.94

融 点  $90\sim 120^{\circ}\text{C}$

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品 1g にキシレン 50mL を加え、加熱して溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 重金属 20ppm 以下 (第2法)

(3) ヒ 素 2ppm 以下 (第2法)

強熱残分 0.1%以下 (5.0g、第1法)

### 天然ゴム糸

#### Natural Rubber Thread

本品は、天然ゴムを加硫化したものである。

#### 性 状

本品は、白色の弾性体で、においはほとんどなく、異物を含まない。

#### 純度試験

##### (1) 色 素

本品 10g を新たに煮沸して冷却した水 100mL に浸し、かき混ぜ、ろ過し、そのろ液 50mL をとり、ネスラー管に入れ、上方より観察するとき、ほとんど呈色しない。

##### (2) 酸及びアルカリ

(1)の試験のろ液 10mL を内径 15mm の試験管にとり、これにフェノールフタレイン試液 2 滴を加えるとき、紅色を呈しない。また、別に同液 10mL をとり、これにメチルオレンジ試液 1 滴を加えるとき、赤色を呈しない。

##### (3) けい光

本品に暗所で紫外線 (主波長:  $365\text{nm}$ ) を照射するとき、著しいけい光又は汚染を疑わせるけい光を認めない。

#### 弾性試験

本品を幅 1.5~5.0mm に切り、100mm 間隔で上下をつかみ、75g の荷重をかけるとき、1 分間以内に切断しない。

### デンプン・アクリル酸グラフト重合体部分ナトリウム塩

#### Partial Sodium Salt of Starch · Acrylic Acid Graft Polymer

本品は、わずかに架橋されたデンブレン・アクリル酸重合体部分ナトリウム塩を主成分とする吸水性樹脂である。

#### 性 状

- (1) 本品は、白色の粉末で、においはほとんどない。
- (2) 本品は、水により吸収膨潤するが、ほとんど溶けない。
- (3) 融点：200℃以上（分解）

#### 確認試験

- (1) 本品 1.0g をとり、水 100mL を加えてかき混ぜた後、10 分間放置するとき、液はゲル状となる。
- (2) (1)のゲル状物 10g に塩化カルシウム試液 1mL を加えて振り混ぜるとき、白色の沈殿を生じる。
- (3) (1)のゲル状物 10g に硫酸マグネシウム試液 1mL を加えて振り混ぜるとき、白色の沈殿を生じる。
- (4) (1)のゲル状物 10g に塩化コバルト溶液 (1→25) 1mL を加え、更に塩化アンモニウム試液 2～3 滴を加えて振り混ぜるとき、淡紅色の沈殿を生じる。この沈殿物を取り、乾燥するとき紫色を呈する。
- (5) (1)のゲル状物 10g をとり、ヨウ素試液 3 滴を加えるとき、液は暗青紫色を呈する。

#### 純度試験

##### (1) 色 素

本品にエタノールを 10 倍以上加えて冷浸し、10 分間かき混ぜた後、ろ過するとき、ろ液は無色透明である。

##### (2) 酸及びアルカリ

本品 1.0g に新たに煮沸し冷却した水 500mL を加えて冷浸する。この液 25mL にフェノールフタレイン試液 3 滴を加えるとき、液は赤色を呈しない。また、別に同液 25mL をとり、メチルオレンジ試液 1 滴を加えるとき、液は黄色である。

##### (3) けい光

本品に暗所で紫外線（主波長：365nm）を照射するとき、著しいけい光を認めない。

##### (4) 重金属 20ppm 以下（第 2 法）

##### (5) アクリル酸

###### 第 1 法

本品 5.0g をとり、メタノール 10mL を正確に加えて 4 時間振り混ぜた後、放置し上澄液を試料溶液とする。別にアクリル酸標準品 0.010g を量り、メタノールに溶かし正確に 200mL とし標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 5μL につき、ガスクロマトグラフィーにより試験を行い、試料溶液のアクリル酸のピーク高さ (Ht) 及び標準溶液のアクリル酸のピーク高さ (Hs) を測定するとき Ht は Hs より大きくない。

###### 第 2 法

本品 1.0g をとり、これに生理食塩水 250mL を加え、2 時間攪拌後ろ過し試料溶液とする。

別にアクリル酸標準品 0.20g をとり、生理食塩水で正確に 100mL とし、その 1mL をとり生理食塩水で正確に 250mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20 $\mu$ L につき、液体クロマトグラフィーにより試験を行い、試料溶液のアクリル酸のピーク高さ (Ht) 及び標準溶液のアクリル酸のピーク高さ (Hs) を測定するとき Ht は Hs より大きくない。

乾燥減量 15%以下 (2.0g、105 $^{\circ}$ C、3 時間)

強熱残分 76%以下 (第 1 法)

吸 収 能

本品 1.0g をナイロン製織物 (幅 10cm、長さ 20cm 及び目開き 255 メッシュ) の中に入れ、1000mL の生理食塩水に 1 時間浸せき後、10 分間放置し余剰水を取り除き吸収能を測定するとき、その吸収能は試料質量の 10 倍以上である。

注) アクリル酸は第 1 法又は第 2 法のいずれかにより確認する。

### 銅アンモニアレーヨン

Cuprammonium Rayon

本品は、セルロースを銅アンモニア法により再生したセルロース繊維である。

性 状

本品は、無色～淡黄色の繊維で、においはない。

確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 3450～3250 $\text{cm}^{-1}$ 、2900 $\text{cm}^{-1}$ 、1650 $\text{cm}^{-1}$ 、1430～1370 $\text{cm}^{-1}$ 、1060～970 $\text{cm}^{-1}$  及び 890 $\text{cm}^{-1}$  付近に吸収を認める。

比 重 1.49～1.51

融 点 260～300 $^{\circ}$ C (分解)

純度試験

(1) 重金属 20ppm 以下 (第 2 法)

(2) ヒ素 2ppm 以下 (第 2 法)

乾燥減量

本品を 20 $^{\circ}$ C、65%RH 24 時間放置した後、2.0g をとり 105 $^{\circ}$ C で 3 時間乾燥するとき、その減量は 13% 以下である。

強熱残分 2.5% 以下 (第 2 法)

### パラフィン

Paraffin

本品は、石油等の成分を重合して得た固形の炭化水素類の混合物である。

#### 性 状

本品は、無色～白色のやや透明な結晶性塊で、わずかに特異なおいがある。

融 点 70～110℃

#### 純度試験

##### (1) 液性

本品10gを加熱して融解し、熱エタノール10mLを加え、振り混ぜて放置するとき、分離したエタノール層は、中性である。

##### (2) 硫酸呈色物

本品5gをネスラー管にとり、110℃のオイルバス上で加温して融解し、これに94.5～95.5%硫酸5mLを加える。これを110℃のオイルバス上で30秒間加温するとき、分離する硫酸層の色は、次の比較液の色より濃くない。

比較液:塩化第二鉄の色の比較原液3.0mLに塩化第一コバルトの色の比較原液1.5mL及び硫酸銅の色の比較原液0.5mLを加えて振り混ぜる。

##### (3) イオウ化合物

本品4.0gにエタノール (99.5) 2mLを加え、水酸化ナトリウム溶液 (1→5) に一酸化鉛を飽和した透明な液2滴を加え、しばしば振り混ぜながら110℃で10分間加熱した後、放冷するとき、液は、暗色を呈しない。

##### (4) 重金属 30ppm以下 (第3法)

##### (5) ヒ素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 0.05%以下 (5.0g、第1法)

## パラフィンオイル

### Paraffin Oil

本品は、石油から得た液状の炭化水素類の混合物である。

#### 性 状

本品は、けい光を発しない無色の透明な油液で、においはないか、または熱時わずかに石油臭がある。

比 重  $d_{20}^{20}$ : 0.81～0.91

#### 純度試験

##### (1) 液性

本品 10mL にエタノール 10mL を加えて煮沸するとき、エタノール層は、中性である。

##### (2) イオウ化合物

本品 4.0mL をとり、エタノール (99.5) 2mL を加え、水酸化ナトリウム溶液 (1→5) に一酸化鉛を飽和した透明な液 2 滴を加え、しばしば振り混ぜながら 70℃ で 10 分間加熱した後、放冷

するとき、液は、暗色を呈しない。

(3) 多核芳香族炭化水素

本品 25mL を 25mL のメスシリンダーにとり、100mL の分液漏斗に移し、メスシリンダーを吸収スペクトル用 n-ヘキサン 25mL を用いて洗い、洗液を分液漏斗に合わせ、よく振り混ぜる。これに吸収スペクトル用ジメチルスルホキシド 5.0mL を加え、2 分間激しく振り混ぜた後、15 分間放置する。下層を 50mL の分液漏斗に移し、吸収スペクトル用 n-ヘキサン 2mL を加え、2 分間激しく振り混ぜた後、2 分間静置する。下層を 10mL の栓付遠心沈殿管に移し、毎分 2500 ~ 3000 回転で約 10 分間遠心分離して得た澄明な液をセルにとり、密栓し、これを試料溶液とする。別に吸収スペクトル用 n-ヘキサン 25mL を 50mL の分液漏斗にとり、吸収スペクトル用ジメチルスルホキシド 5.0mL を加え、2 分間激しく振り混ぜた後、2 分間静置する。下層を 10mL の栓付遠心沈殿管に移し、毎分 2500 ~ 3000 回転で約 10 分間遠心分離して得た澄明な液をセルにとり、密栓する。これを対照とし、直ちに試料溶液の吸光度を測定するとき、波長 260 ~ 350nm において、0.20 以下である。

(4) 重金属 30ppm 以下 (第 3 法)

(5) ヒ素 2ppm 以下 (第 2 法)

非晶性プロピレン・エチレン共重合体  
Amorphous Propylene · Ethylene Copolymer

本品は、プロピレンとエチレンからなる共重合体で、平均分子量は1000~10000である。

性 状

本品は、やや粘着性がある乳白色~淡黄色の固体で、においはないか、またはわずかに特異なおいがある。

本品は、水、エーテル及びエタノールにはほとんど溶けないが、トルエン及びn-ヘプタンにはやや溶ける。

確認試験

本品を190℃で加熱圧着し、50~100μmの薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2960cm<sup>-1</sup>、2850cm<sup>-1</sup>、1460cm<sup>-1</sup>、1380cm<sup>-1</sup>、1156cm<sup>-1</sup>、973cm<sup>-1</sup>及び730cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

純度試験

(1) 溶 状

本品1gを80℃のトルエン100mLに溶かすとき、液は透明である。

(2) 重金属 10ppm以下 (第 2 法)

乾燥減量 1.0%以下 (50g、160℃、4時間)

強熱残分 0.1%以下 (30g、900℃、90分)

非晶性プロピレン・エチレン・ブテン-1 三元共重合体  
Amorphous Propylene · Ethylene · Butene-1 Ternary Copolymer

本品は、プロピレンとエチレン及びブテン-1からなる三元共重合体で、平均分子量は1000～10000である。

性 状

本品は、やや粘着性がある乳白色～淡黄色の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、水、エーテル及びエタノールにはほとんど溶けないが、トルエン及びn-ヘプタンにはやや溶ける。

確認試験

本品を190℃で加熱圧着し、50～100μmの薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法によって測定するとき、波数2960cm<sup>-1</sup>、2850cm<sup>-1</sup>、1460cm<sup>-1</sup>、1380cm<sup>-1</sup>、1156cm<sup>-1</sup>、973cm<sup>-1</sup>、760cm<sup>-1</sup>及び730cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

純度試験

(1) 溶 状

本品1gを80℃のトルエン100mLに溶かすとき、液は透明である。

(2) 重金属 10ppm以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (50g、160℃、4時間)

強熱残分 0.1%以下 (30g、900℃、90分)

非晶性プロピレン・ブテン-1 共重合体  
Amorphous Propylene · Butene-1 Copolymer

本品は、プロピレンとブテン-1からなる共重合体で、平均分子量は1000～10000である。

性 状

本品は、やや粘着性がある乳白色～淡黄色の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、水、エーテル及びエタノールにはほとんど溶けないが、トルエン及びn-ヘプタンにはやや溶ける。

確認試験

本品を190℃で加熱圧着し、50～100μmの薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2960cm<sup>-1</sup>、2850cm<sup>-1</sup>、1460cm<sup>-1</sup>、1380cm<sup>-1</sup>、1156cm<sup>-1</sup>、973cm<sup>-1</sup>及び760cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

純度試験

(1) 溶 状

本品1gを80℃のトルエン100mLに溶かすとき、液は透明である。

(2) 重金属 10ppm以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (50g、160℃、4時間)

強熱残分 0.1%以下 (30g、900℃、90分)

### 非晶性ポリプロピレン樹脂 Amorphous Polypropylene Resin

本品は、プロピレンの重合体で、平均分子量は1000～10000である。

#### 性 状

本品は、やや粘着性がある乳白色～淡黄色の固体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は、水、エーテル及びエタノールにはほとんど溶けないが、トルエン及びn-ヘプタンにはやや溶ける。

#### 確認試験

本品を190℃で加熱圧着し、50～100 $\mu$ mの薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2960 $\text{cm}^{-1}$ 、2850 $\text{cm}^{-1}$ 、1460 $\text{cm}^{-1}$ 、1380 $\text{cm}^{-1}$ 、1156 $\text{cm}^{-1}$ 及び973 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品1gを80℃のトルエン100mLに溶かすとき、液は透明である。

(2) 重金属 10ppm以下 (第2法)

乾燥減量 1.0%以下 (50g、160℃、4時間)

強熱残分 0.1%以下 (30g、900℃、90分)

### フマル酸変性ロジンエマルジョン Emulsion of Rosin Denatured with Fumaric Acid

本品は、フマル酸変性ロジンを乳化剤とともに乳化し、エマルジョンとしたものである。

#### 性 状

本品は、白色の液体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

#### 確認試験

本品を105℃で約2時間乾燥後、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数1700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

pH 4.0～6.5

#### 純度試験

- (1) 重金属 10ppm以下 (第2法)
- (2) ヒ素 2ppm以下 (第2法)

### 芳香族変性テルペン樹脂 Aromatic Denatured Terpene Resin

本品は、テルペン炭化水素化合物と置換基を有する芳香族炭化水素化合物との共重合物を水素添加して得られる合成樹脂である。

#### 性 状

本品は、淡黄色の半透明なビーズ状又はフレーク状の砕きやすい固体で、においはほとんどない。  
本品は、クロロホルム及びトルエンに溶けやすく、水及びエタノールにほとんど溶けない。

#### 確認試験

本品約 1g をクロロホルム 5mL に溶かし、この溶液を窓板に薄く塗りつけ、クロロホルムを揮散させ薄膜とし、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数  $2900\text{cm}^{-1}$ 、 $1600\text{cm}^{-1}$ 、 $1450\text{cm}^{-1}$  及び  $1375\text{cm}^{-1}$  付近に吸収を認める。

酸 価 2.0 以下 (第1法)

本品をトルエン/エタノール混液 (1:1) に溶かしたものについて試験を行う。

重 金 属 10ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 1%以下 (1.0g、 $105^{\circ}\text{C}$ 、4時間)

強熱残分 0.1%以下 (10g、 $800^{\circ}\text{C}$ )

### ポリアクリル酸アミド液 Polyacrylamide Solution

本品は、ポリアクリル酸アミドの重合体を水溶液としたものである。

#### 性 状

本品は、淡黄色の透明な液体で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

#### 確認試験

本品を  $105^{\circ}\text{C}$  で約 2 時間乾燥後、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数  $3380\text{cm}^{-1}$ 、 $1660\text{cm}^{-1}$ 、 $1610\text{cm}^{-1}$  (アミド)、 $1460\text{cm}^{-1}$  及び  $1130\text{cm}^{-1}$  付近に吸収を認める。

pH 4.0~9.0

#### 純度試験

- (1) 重金属 20ppm 以下 (第2法)
- (2) ヒ素 2ppm 以下 (第2法)



- (3) アクリル残存モノマー 1.5%以下 (1.0g)

### ポリアクリル酸アミド・ポリビニルアルコール共重合体エマルジョン

#### Polyacrylamide·Polyvinyl Alcohol Copolymer Emulsion

本品は、ポリビニルアルコールとポリアクリル酸アミドの共重合体エマルジョンである。

#### 性 状

本品は、粘性を有する不透明の液体で、においはほとんどない。

#### 確認試験

- (1) ポリビニルアルコールの確認

本品5mLをとり、ヨウ素試液1滴を加えるとき、液は暗青色又は赤色を呈する。また、別に本品5mLをとり、エタノール10mLを加えるとき、綿状の沈殿を生じる。

- (2) ポリアクリル酸アミドの確認

本品を105℃で約2時間乾燥後、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数3380cm<sup>-1</sup>、1660cm<sup>-1</sup>、1610cm<sup>-1</sup> (アミド)、1460cm<sup>-1</sup>及び1130cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

#### 純度試験

- (1) 重金属 20ppm以下 (第2法)  
(2) ヒ素 2ppm以下 (第2法)  
(3) アクリル残存モノマー 1.5%以下 (1.0g)

### ポリエステル・共重合ポリエステル複合繊維

本品は、ポリエステル(ポリエチレンテレフタレート)を芯、共重合ポリエステル(ポリエチレンテレフタレート・イソフタレート共重合体ポリエステル)を鞘に複合した繊維である。

#### 性 状

本品は、無色～白色の繊維で、においはない。

#### 確認試験

- (1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数1720cm<sup>-1</sup>、1580cm<sup>-1</sup>、1500cm<sup>-1</sup>、1410cm<sup>-1</sup>、1260cm<sup>-1</sup>、1100cm<sup>-1</sup>、1015cm<sup>-1</sup>、870cm<sup>-1</sup>及び725cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。  
(2) 炎に近づけると、熔融して燃える。硬くて丸い黒色の灰が残る。

比 重 1.37～1.38

融 点 ポリエステル：255～260℃

共重合体ポリエステル：110℃ (目視による軟化点)

#### 純度試験

- (1) 重金属 20ppm以下 (第2法)
  - (2) ヒ素 2ppm以下 (原子吸光度法)
- 強熱残分 4%以下 (第2法)

### ポリエステル樹脂

#### Polyethylene Terephthalate Resin (PET)

本品は、テレフタル酸又はテレフタル酸ジメチルとエチレングリコールとをエステル化又はエステル交換反応後、重縮合反応して得られるポリエチレンテレフタレート樹脂である。

#### 性 状

本品は、半透明の粉末又は粒状で、においはほとんどない。

#### 確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $1720\text{cm}^{-1}$ 、 $1580\text{cm}^{-1}$ 、 $1250\text{cm}^{-1}$ 、 $1100\text{cm}^{-1}$ 、 $1015\text{cm}^{-1}$ 、 $870\text{cm}^{-1}$ 及び $725\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収が認められる。

比 重 1.35~1.39

融 点 200~260°C

#### 純度試験

- (1) 重金属 20ppm以下 (第2法)
  - (2) ヒ素 2ppm以下 (第2法)
- 強熱残分 0.1%以下 (5.0g、第1法)

### ポリエステル繊維

#### Polyethylene Terephthalate Fiber

本品は、テレフタル酸又はテレフタル酸ジメチルとエチレングリコールとをエステル化又はエステル交換反応後、重縮合反応して得られるポリエチレンテレフタレートを繊維としたものである。

#### 性 状

本品は、無色~白色の繊維で、においはない。

#### 確認試験

- (1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $1720\text{cm}^{-1}$ 、 $1580\text{cm}^{-1}$ 、 $1250\text{cm}^{-1}$ 、 $1100\text{cm}^{-1}$ 、 $1015\text{cm}^{-1}$ 、 $870\text{cm}^{-1}$ 及び $725\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。
- (2) 炎に近づけると、熔融して燃える。硬くて丸い黒色の灰が残る。

比 重 1.38~1.39

融 点 250~260°C

#### 純度試験

- (1) 重金属 20ppm以下 (第2法)
  - (2) ヒ素 2ppm以下 (原子吸光光度法)
- 強熱残分 2.5%以下 (第2法)

**ポリエステル・ポリエチレン複合繊維**  
Polyethylene Terephthalate/Polyethylene Bicomponent Fiber

本品は、ポリエステル (ポリエチレンテレフタレート) を芯、ポリエチレンを鞘に複合した繊維である。

**性 状**

本品は、無色～白色の繊維で、においはない。

**確認試験**

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $2980\text{cm}^{-1}$ 、 $2910\text{cm}^{-1}$ 、 $1720\text{cm}^{-1}$ 、 $1580\text{cm}^{-1}$ 、 $1450\text{cm}^{-1}$ 、 $1250\text{cm}^{-1}$ 、 $1100\text{cm}^{-1}$ 、 $1015\text{cm}^{-1}$ 、 $870\text{cm}^{-1}$ 及び $725\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

**比 重** 1.07～1.37

**融 点** ポリエステル：250～260℃

ポリエチレン：115～135℃

**純度試験**

- (1) 重金属 20ppm以下 (第2法)
  - (2) ヒ素 2ppm以下 (原子吸光光度法)
- 強熱残分 4%以下 (第2法)

**ポリエチレンオキサイド**  
Polyethylene Oxide

本品は、酸化エチレンの開環重合により得られる水溶性高分子で、平均分子量は200万から1000万である。

**性 状**

本品は、白色の粉末で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

**確認試験**

本品 0.2g に水 10mL 及びチオシアン酸アンモニウム・硝酸コバルト試液 5mL を加え振り混ぜて放置するとき、クロロホルム層は青色を呈する。

**粘 度**

本品の水溶液 (1→200) の粘度は、100～1000mPa·s である。(ブルックフィールド型回転粘度)

計、2号、12回転、25℃、安定)

#### 純度試験

(1) 重金属 20ppm以下(第2法)

(2) ヒ素 2ppm以下(第2法)

乾燥減量 4.0%以下(2.0g、105℃、3時間)

強熱残分 5.0%以下(第1法)

### ポリエチレン樹脂

Polyethylene Resin

本品は、エチレンを重合して得られるポリエチレン樹脂である。

#### 性状

本品は、半透明の粉末又は粒状で、においはほとんどない。

#### 確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、高分子n-パラフィン同族体の吸収が認められる。

比重 0.85~1.00

融点 90~140℃

#### 純度試験

##### (1) 溶状

本品1.0gにキシレン50mLを加え、加熱して溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 重金属 20ppm以下(第2法)

(3) ヒ素 2ppm以下(第2法)

強熱残分 0.1%以下(5.0g、第1法)

### ポリエチレン繊維

Polyethylene Fiber

本品は、エチレンを重合して得られるポリエチレンを繊維としたものである。

#### 性状

本品は、無色~白色の繊維で、においはない。

#### 確認試験

(1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2900cm<sup>-1</sup>、1470cm<sup>-1</sup>、1370cm<sup>-1</sup>、740cm<sup>-1</sup>及び720cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

(2) 炎に近づけると、煙を上げ溶融しながら燃えて、パラフィンの燃えるにおいがする。硬い灰色

のビーズ状の灰が残る。

比 重 0.93~0.96

融 点 120~135°C

純度試験

(1) 重金属 20ppm 以下 (第2法)

(2) ヒ 素 2ppm 以下 (第2法)

強熱残分 2.5%以下 (第2法)

### ポリエチレン・ポリプロピレン複合繊維 Polyethylene/Polypropylene Bicomponent Fiber

本品は、ポリプロピレンを芯・ポリエチレンを鞘ないしはサイドバイサイドに複合した繊維である。

性 状

本品は、無色～白色の繊維で、においはない。

確認試験

(1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2980 $\text{cm}^{-1}$ 、2930 $\text{cm}^{-1}$ 、2830 $\text{cm}^{-1}$ 、1465 $\text{cm}^{-1}$ 、1455 $\text{cm}^{-1}$ 、1375 $\text{cm}^{-1}$ 、1255 $\text{cm}^{-1}$ 、1165 $\text{cm}^{-1}$ 、995 $\text{cm}^{-1}$ 、970 $\text{cm}^{-1}$ 、840 $\text{cm}^{-1}$ 、810 $\text{cm}^{-1}$ 、740 $\text{cm}^{-1}$ 及び725 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

(2) 炎に近づけると、煙を上げ溶融しながら燃えて、パラフィンの燃えるにおいがする。硬い灰色のビーズ状の灰が残る。

比 重 0.91~1.01

融 点 ポリプロピレン：160~170°C

ポリエチレン：115~135°C

純度試験

(1) 重金属 20ppm 以下 (第2法)

(2) ヒ 素 2ppm 以下 (第2法)

強熱残分 4%以下 (第2法)

### ポリ塩化ビニル繊維 Polyvinyl Chloride Fiber (PVC Fiber)

本品は、塩化ビニルを懸濁重合して得られるポリ塩化ビニルを繊維としたものである。

性 状

本品は、無色～白色の繊維で、においはない。

### 確認試験

- (1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 2950 $\text{cm}^{-1}$ 、1420 $\text{cm}^{-1}$ 、1240 $\text{cm}^{-1}$ 、1070 $\text{cm}^{-1}$ 、960 $\text{cm}^{-1}$ 及び700 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。
- (2) 本品を燃焼するとき、軟化・収縮しつつばい煙をあげ、黒塊炭となる。

比 重 1.39

融 点 200~210 $^{\circ}\text{C}$

### 純度試験

#### 塩化ビニル

本品1.0gをとり、20mLのメスフラスコに入れる。これにガスクロマトグラフィー用テトラヒドロフラン約10mLを加え、冷所で時々振り混ぜて溶かした後、冷却しながら、あらかじめ冷却したガスクロマトグラフィー用テトラヒドロフランを加えて20mLとし、試料溶液とする。試料溶液及び塩化ビニル標準液2 $\mu\text{L}$ につき、次の条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行う。それぞれの塩化ビニルのピーク高さHt及びHsを測定するとき、HtはHsより大きくない。

#### 操作条件

検出器：水素炎イオン化検出器

カラム：内径約 3mm、長さ 2~3m の管にガスクロマトグラフィー用ポリプロピレングリコールを 150~180 $\mu\text{m}$  のガスクロマトグラフィー用ケイソウ土に 10~15%の割合で被覆したものを充てんする。

カラム温度：60~70 $^{\circ}\text{C}$ の一定温度

キャリアーガス：窒素

液量：塩化ビニルの保持時間が約 1.5 分になるように調整する。

カラムの選定：塩化ビニル標準液 2 $\mu\text{L}$  につき、上記の条件で操作するとき、塩化ビニル、エタノールの順に流出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。

検出感度：塩化ビニル標準液 2 $\mu\text{L}$  から得た塩化ビニルのピーク高さが 50~70mm になるように調整する。

乾燥減量 1.0%以下 (1.0g、105 $^{\circ}\text{C}$ 、2時間)

強熱残分 2.5%以下 (第2法)

## ポリビニルアルコール

### Polyvinyl Alcohol

本品は、ポリ酢酸ビニルをけん化して得た重合体で $-\text{[CH}_2-\text{CHOH]}_n-\text{[CH}_2-\text{CHOCOCH}_3\text{]}_m-$ で表される。本品は、その粘度を $\text{mPa}\cdot\text{s}$ 単位で表示し、通例2~100 $\text{mPa}\cdot\text{s}$ である。

### 性 状

本品は、無色~微黄白色の粒、粉末もしくは繊維で、においはないか、またはわずかに酢酸臭がある。

本品は、エタノール、エーテル及びクロロホルムにほとんど溶けない。

本品に水を加えて加熱するとき、透明な粘性の液となる。

本品は、吸湿性である。

#### 確認試験

- (1) 本品0.5gに水10mLを加え、加熱して溶かし、冷後、この液5mLにヨウ素試液1滴を滴下し、静置するとき、液の色は暗赤色～青色を呈する。
- (2) 本品0.01gに水100mLを加え、加熱して溶かし、冷後、この液5mLにヨウ素試液1滴を加えて混和し、次にホウ酸溶液(1→25) 5mLを加えるとき、液は青色を呈する。
- (3) (1)で得た液2mLにエタノール5mLを加えるとき、白色綿状の沈殿を生じる。

粘度 表示値 (mPa·s) の85～115%

本品を乾燥し、その4.000gをとり、水95mLを加え、30分間放置した後、冷却器を付け、2時間かき混ぜながら加熱して溶かす。冷後、水を加えて100.0gとし、混和する。静置して泡を除き、20±0.1℃で第1法により試験を行う。

pH 本品の水溶液(1→25)のpHは5.0～8.0である。

けん化度 70mol%以上

本品を乾燥し、推定けん化度に応じ、表1に規定する採取量を精密に量り、共栓三角フラスコに入れ、水100mLを加え、2時間かき混ぜながら加熱して溶かす。冷後、表1に従い、0.1mol/L又は0.5mol/L水酸化ナトリウム液25mLを正確に加え、密栓して2時間放置する。次に、水酸化ナトリウム液と同一濃度の硫酸25mLを正確に加えてよく振り混ぜた後、表1に従い、0.1mol/L又は0.5mol/L水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬:フェノールフタレイン試液3滴)。同様の方法で空試験を行う。

$$\text{けん化度(mol\%)} = 100 - \frac{44.05A}{60.05 - 0.42A}$$

$$A = \frac{0.6005 \times (a - b) F D}{\text{試料の量(g)}}$$

a: 0.1mol/L又は0.5mol/L水酸化ナトリウム液の消費量 (mL)

b: 空試験における0.1mol/L又は0.5mol/L水酸化ナトリウム液の消費量 (mL)

F: 0.1mol/L又は0.5mol/L水酸化ナトリウム液のファクター

D: 水酸化ナトリウム液の濃度 (0.1mol/L又は0.5mol/L)

表1 推定けん化度と試料採取量及び使用規定液

推定けん化度 モル%	試料採取量 g	使用規定液	
		濃度 mol/L	使用量 mL
97以上	3	0.1	25.00
90以上 97未満	3	0.5	25.00
80以上 90未満	2	0.5	25.00
70以上 80未満	1	0.5	25.00

純度試験

(1) 溶 状

本品1.0gを水20mLに加え、よくかき混ぜて分散させた後、2時間以上かき混ぜながら加熱し、冷却するとき、液は無色透明である。

(2) 重金属 10ppm以下 (2.0g、第2法、鉛標準液2.0mL)

(3) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

乾燥減量 6.0%以下 (1.0g、105℃、3時間)

強熱残分 2%以下 (第1法)

### ポリプロピレン共重合繊維

本品は、プロピレンとエチレンを共重合して得られるプロピレン・エチレン共重合体を繊維としたものである。

性 状

本品は、無色～白色の繊維で、においはない。

確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2950cm<sup>-1</sup>、2920cm<sup>-1</sup>、2830cm<sup>-1</sup>、1455cm<sup>-1</sup>、1375cm<sup>-1</sup>、1255cm<sup>-1</sup>、1165cm<sup>-1</sup>、970cm<sup>-1</sup>、840cm<sup>-1</sup>及び 720cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

比 重 0.89～0.90

融 点 148℃

純度試験

(1) 重金属 20ppm以下 (第2法)

(2) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 4%以下 (第2法)

### ポリプロピレン・共重合ポリプロピレン複合繊維

本品は、ポリプロピレンを芯、共重合ポリプロピレン (プロピレン・エチレン共重合体) を鞘ないしはサイドバイサイドに複合した繊維である。

性 状

本品は、無色～白色の繊維で、においはない。

確認試験

(1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2980cm<sup>-1</sup>、2940cm<sup>-1</sup>、2830cm<sup>-1</sup>、1460cm<sup>-1</sup>、1380cm<sup>-1</sup>、1255cm<sup>-1</sup>、1165cm<sup>-1</sup>及び710cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。



(2) 炎に近づけると、煙を上げ溶融しながら燃えて、パラフィンの燃えるにおいがする。硬い灰色のビーズ状の灰が残る。

比 重 0.91~0.94

融 点 ポリプロピレン:160~170℃

共重合ポリプロピレン:115~148℃

#### 純度試験

(1) 重金属 20ppm以下 (第2法)

(2) ヒ素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 4%以下 (第2法)

### ポリプロピレン樹脂

Polypropylene Resin (PP)

本品は、プロピレンを重合して得られるポリプロピレン樹脂である。

#### 性 状

本品は、半透明の粉末又は粒状で、においはほとんどない。

#### 確認試験

本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数2930 $\text{cm}^{-1}$ 、2830 $\text{cm}^{-1}$ 、1455 $\text{cm}^{-1}$ 、1375 $\text{cm}^{-1}$ 、1255 $\text{cm}^{-1}$ 、1165 $\text{cm}^{-1}$ 、995 $\text{cm}^{-1}$ 、970 $\text{cm}^{-1}$ 、840 $\text{cm}^{-1}$ 及び810 $\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収が認められる。

比 重 0.89~0.94

融 点 150~170℃

#### 純度試験

(1) 溶 状

本品1gにキシレン50mLを加え、加熱して溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 重金属 20ppm以下 (第2法)

(3) ヒ素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 0.1%以下 (5.0g、第1法)

### ポリプロピレン繊維

Polypropylene Fiber

本品は、プロピレンを重合して得られるポリプロピレンを繊維としたものである。

#### 性 状

本品は、無色~白色の繊維で、においはない。

#### 確認試験

- (1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $2930\text{cm}^{-1}$ 、 $2830\text{cm}^{-1}$ 、 $1455\text{cm}^{-1}$ 、 $1375\text{cm}^{-1}$ 、 $1255\text{cm}^{-1}$ 、 $1165\text{cm}^{-1}$ 、 $995\text{cm}^{-1}$ 、 $970\text{cm}^{-1}$ 、 $840\text{cm}^{-1}$ 及び $810\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。
- (2) 炎に近づけると、煙を上げ溶融しながら燃えて、パラフィンの燃えるにおいがする。硬い灰色のビーズ状の灰が残る。

比 重 0.89~0.94

融 点 160~170°C

#### 純度試験

(1) 重金属 20ppm以下 (第2法)

(2) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

強熱残分 2.5%以下 (第2法)

### マレイン酸変性石油樹脂液

本品は、水酸化カリウム水溶液を加熱したマレイン化石油樹脂とマレイン化ロジンに加え、よくかき混ぜながら中和し、水を加えて乳化分散し、冷後ろ過したものである。

#### 性 状

本品は、淡黄褐色の半透明な液体で、特異なおいがある。

#### 確認試験

本品1.0gを水5mLに溶かし、塩酸0.2mLで中和後、エーテル10mLを加えてかき混ぜる。エーテル層をとり、溶媒を揮散し、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 $1860\text{cm}^{-1}$ 、 $1780\text{cm}^{-1}$ 、 $1700\text{cm}^{-1}$ 、 $720\text{cm}^{-1}$ 及び $700\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。

pH<sub>5</sub> 9.5~10.5 (1→6)

#### 純度試験

(1) 重金属 10ppm以下 (第2法)

(2) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

### マレイン酸変性ロジン液

Solution of Rosin Denatured with Maleic Acid

本品は、マレイン酸変性ロジンのアルカリ金属塩水溶液である。

#### 性 状

本品は、褐色透明な液体で、ロジンの特異なおいがある。

#### 確認試験

本品を105℃で約2時間乾燥後、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数3000~2800cm<sup>-1</sup>、1570cm<sup>-1</sup>及び700cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

pH 9.0~11.0

#### 純度試験

- (1) 重金属 10ppm以下 (第2法)
- (2) ヒ素 2ppm以下 (第2法)

### α-メチルスチレン系樹脂

α-Methylstyrene-group Resin

本品は、α-メチルスチレンモノマー (50~90%) とスチレンモノマー (10~50%) を三フッ化ホウ素を触媒として重合させて得られるオリゴマーで、平均分子量は600~5000である。

#### 性 状

本品は、弱粘性を有する白色の固体で、アセトン及びトルエンに溶けやすく、水及びメタノールには不溶である。

#### 確認試験

本品約4.0gを四塩化炭素100mLに溶かし、塩化ナトリウムの固定セルに注入し、赤外吸収スペクトル測定法の溶液法により測定するとき、波数2970cm<sup>-1</sup>及び2930cm<sup>-1</sup>付近に吸収を認める。

#### 純度試験

##### (1) 溶 状

本品1gにトルエン100mLを加え水浴上で加熱するとき、液は透明である。

##### (2) 重金属 50ppm以下 (0.5g、第2法、鉛標準液2.5mL)

乾燥減量 1.0%以下 (1.0g、105℃、4時間)

強熱残分 0.1%以下 (1.0g、450~550℃)

### 綿状パルプ

Flocculent Pulp

本品は、化学パルプを綿状としたものである。

#### 性 状

- (1) 本品は、白色で、においはなく異物を含まない。
- (2) 本品は、繊維塊を著しく含まない。

#### 純度試験

##### (1) リグニン

本品に、フロログルシン0.1gに塩酸15mL及び水を加えて溶かし20mLとした液を滴下する

とき、著しい桃色又は赤色を呈しない。

(2) 色素

本品 10g にエタノール 100mL を加えて冷浸し、圧して浸液 50mL をとり、ネスラー管に入れ、上方から観察するとき、液の色は、黄色を呈することがあっても青色又は緑色を呈しない。

(3) 酸及びアルカリ

本品 10g に、新たに煮沸し、冷却した水 100mL を加えて冷浸する。その浸液 25mL をとり、これにフェノールフタレイン試液 3 滴を加えるとき、紅色を呈しない。また、別に同液 25mL をとり、これにメチルオレンジ試液 1 滴を加えるとき、赤色を呈しない。

(4) けい光

本品に暗所で紫外線（主波長：365nm）を照射するとき、著しいけい光又は汚染を疑わせるけい光を認めない。

(5) 沈降速度

本品 5.0g をとり、径 0.4mm の銅線（26 番線）を用いて作った径 50mm、深さ 80mm、線と線の距離 20mm 及び重さ約 3g の円筒型の試験かごの中に入れ、かごを横にして 200mm × 200mm のガーゼの対角線上の二端で包み他の両端を結び、結び目を上にして深さ約 200mm の常温の水の中に水面上約 10mm の高さからかごを横にして静かに落とすとき、かごは、8 秒以内に水面下に沈む。

灰 分 0.65%以下 (5.0g)

### モノラウリン酸ソルビタン

#### Sorbitan Monolaurate

本品は、主としてソルビタンのラウリン酸モノエステルからなる。

#### 性 状

本品は、微黄色～黄褐色の液体で、わずかに特異なおいがある。

#### 確認試験

- (1) 本品 0.5g にエタノール 5mL を加え、水浴上で加熱して溶かし、希硫酸 5mL を加え、更に 30 分間加熱する。これを冷却するとき、油滴又は白色～黄白色の固体を析出する。この油滴又は固体を分離し、エーテル 5mL を加えて振り混ぜるとき、溶ける。
- (2) (1)の油滴又は固体を分離した液 2mL に新たに調製したカテコール溶液（1→10）2mL を加えて振り混ぜ、更に硫酸 5mL を加えて振り混ぜるとき、液は赤色～赤かつ色を呈する。
- (3) 本品 5g をとり、けん化価測定法に準じてけん化した後、エタノールを充分に留去する。これに水 50mL を加えて溶かした後、塩酸酸性（指示薬：メチルオレンジ試液）とし、エーテル 30mL で 2 回抽出する。エーテル層を合わせ、水 20mL ずつで洗液が中性となるまで洗った後、水浴上でエーテルを留去し、残留物の酸価を測定するとき（0.5g、第 1 法）、260～280 である。ただし、けん価には 0.5mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 50mL を用いる。

酸 価 13 以下 (2.0g、第 2 法)

けん化価 155~174

純度試験

(1) 重金属 20ppm 以下 (第2法)

(2) ヒ素 2ppm 以下 (第2法)

乾燥減量 3.0%以下 (5.0g、105°C、1時間)

強熱残分 1.0%以下 (3.0g、第3法)

木綿

Cotton

本品は、綿花の種子に付着している綿毛である。

性 状

(1) 本品は、白色で、においはなく異物を含まない。

(2) 本品は、果皮、種子の破片又はネップを著しく含まない。

確認試験

本品は、アンモニア銅試液に溶けエタノールには溶けない。

純度試験

(1) 色 素

本品 10g にエタノール 100mL を加えて冷浸し、圧して浸液 50mL をとり、ネスラー管に入れ、上方より観察するとき、液の色は、黄色を呈することがあっても青色又は緑色を呈色しない。

(2) 酸及びアルカリ

本品 10g に、新たに煮沸し、冷却した水 100mL を加えて冷浸する。その浸液 25mL をとり、これにフェノールフタレイン試液 3 滴を加えるとき、紅色を呈しない。また、別に同液 25mL をとり、これにメチルオレンジ試液 1 滴を加えるとき、赤色を呈しない。

(3) けい光

本品に暗所で紫外線 (主波長 : 365nm) を照射するとき、著しいけい光又は汚染を疑わせるけい光を認めない。

灰 分 0.25%以下 (5.0g)

硫酸アルミニウム

Aluminum Sulfate

本品は、硫酸アルミニウム  $[\text{Al}_2(\text{SO}_4)_3 \cdot 18\text{H}_2\text{O}]$  を 8.0~8.2%含有する水溶液である。

性 状

本品は、無色~淡黄褐色の透明な液で、においはない。

#### 確認試験

- (1) 本品は、アルミニウム塩の定性反応を呈する。
- (2) 本品は、硫酸塩の定性反応(1)及び(2)を呈する。

#### pH

本品を 2w/v% に調製し、pH 測定法により測定するとき、3.0~4.0 の範囲である。

#### 純度試験

##### (1) 鉄

本品 1.0g をネスラー管にとり、希硝酸 6mL 及び水を加えて溶かし 20mL とし、過硫酸アンモニウム 0.05g 及びチオシアン酸アンモニウム試液 5mL を加えて振り混ぜた後、n-ブタノール 15mL を加えて 30 秒間激しく振り混ぜるとき、n-ブタノール層の色は、次の比較液より濃くない。

比較液：本品の代わりに鉄標準液 2.0mL を用い、同様に操作する。

- (2) 重金属 10ppm 以下 (第 1 法)
- (3) ヒ素 2ppm 以下 (0.40g、第 1 法)

### レーヨンステープル綿

#### Flocculent Rayon

本品は、植物性繊維を原料とした再生繊維を綿状にしたものである。

#### 性状

本品は、白色で、においはなく、異物を含まない。

#### 確認試験

本品は、硫酸に溶け、アンモニア銅試液には初期膨潤したのち溶ける。

#### 純度試験

##### (1) 色素

本品 10g にエタノール 100mL を加えて冷浸し、圧して浸液 50mL をとり、ネスラー管に入れ、上方から観察するとき、液の色は、黄色を呈することがあっても青色又は緑色を呈しない。

##### (2) 酸及びアルカリ

本品 10g に、新たに煮沸し、冷却した水 100mL を加えて冷浸する。その浸液 25mL をとり、これにフェノールフタレイン試液 3 滴を加えるとき、紅色を呈しない。また、別に同液 25mL をとり、これにメチルオレンジ試液 1 滴を加えるとき、赤色を呈しない。

##### (3) けい光

本品に暗所で紫外線 (主波長：365nm) を照射するとき、著しいけい光又は汚染を疑わせるけい光を認めない。

##### (4) 沈降速度

本品 5.0g をとり、径 0.4mm の銅線 (26 番線) を用いて作った径 50mm、深さ 80mm、線と線との距離 20mm 及び重さ約 3g の円筒型の試験かごの中に入れ、深さ約 200mm の常温の水

の中に水面上約 10mm の高さからかごを横にして静かに落とすとき、かごは、8 秒以内に水面下に沈む。

灰 分 0.25%以下 (5.0g)  
1.2%以下 (5.0g) (つや消し加工したもの)

### レーヨン繊維

### Rayon Fiber

本品は、セルロースをビスコース法により再生したセルロース繊維である。

### 性 状

本品は、無色～淡黄色の繊維で、においはほとんどない。

### 確認試験

- (1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数  $2900\text{cm}^{-1}$ 、 $1650\text{cm}^{-1}$ 及び $890\text{cm}^{-1}$ 付近に吸収を認める。
- (2) 本品を燃焼するとき、紙の燃えるにおいを発し、その残灰は細く、黒色又は灰色である。
- (3) 本品は、アンモニア銅試液に溶ける。

比 重 1.50～1.52

融 点  $260\sim 300^{\circ}\text{C}$  (分解)

### 純度試験

- (1) 重金属 20ppm以下 (第2法)
- (2) ヒ 素 2ppm以下 (第2法)

乾燥減量 11.0%以下 (2.0g、 $105^{\circ}\text{C}$ 、3時間)

強熱残分 2.5%以下 (第2法)

## 第2部 着色成分



## 二酸化ケイ素

- C. I. アシッドブルー9 (青色205号)
- C. I. アシッドブルー74 (青色2号)
- C. I. アシッドレッド51 (赤色3号)
- C. I. ダイレクトイエロー12
- C. I. ダイレクトオレンジ26
- C. I. ダイレクトバイオレット51
- C. I. ダイレクトブルー1
- C. I. ダイレクトブルー86
- C. I. ダイレクトブルー106
- C. I. ダイレクトブルー203
- C. I. ダイレクトレッド23
- C. I. ダイレクトレッド31
- C. I. ダイレクトレッド80
- C. I. ダイレクトレッド81
- C. I. ダイレクトレッド227
- C. I. バットブルー1 (青色201号)
- C. I. ピグメントイエロー1 (黄色401号)
- C. I. ピグメントイエロー12 (黄色205号)
- C. I. ピグメントイエロー14
- C. I. ピグメントイエロー83
- C. I. ピグメントオレンジ13 (だいたい色204号)
- C. I. ピグメントグリーン7
- C. I. ピグメントバイオレット19
- C. I. ピグメントバイオレット23
- C. I. ピグメントブルー15 (青色404号)
- C. I. ピグメントブルー27 (コンジョウ)
- C. I. ピグメントブラウン6 (酸化鉄類混合物)
- C. I. ピグメントブラウン24 (クロムチタンイエロー)
- C. I. ピグメントブラック7 (カーボンブラック)
- C. I. ピグメントホワイト4 (酸化亜鉛)
- C. I. ピグメントホワイト6 (酸化チタン)
- C. I. ピグメントホワイト18 (炭酸カルシウム)
- C. I. ピグメントホワイト19 (カオリン)
- C. I. ピグメントホワイト21 (硫酸バリウム)
- C. I. ピグメントレッド22 (赤色404号)
- C. I. ピグメントレッド48 (赤色405号)
- C. I. ピグメントレッド57 (赤色201号)
- C. I. ピグメントレッド57-1 (赤色202号)

- C. I. ピグメントレッド166
- C. I. フードブルー2 (青色1号)
- C. I. ベイシックバイオレット3
- C. I. リアクティブオレンジ16
- C. I. リアクティブブラック5
- C. I. リアクティブブルー21
- C. I. リアクティブブルー27
- C. I. リアクティブブルー28
- C. I. リアクティブブルー38
- C. I. リアクティブレッド21